倭漢朗詠集

巻下

310
103

310-103
×

外箱あり

始

375

倭漢朗詠集 巻下

310
103

倭漢朗詠集卷下

風　霞　晴　曉　松　竹

草　鶴　猿　管絃 付舞妓　文詞 付遺文

酒　山　山水 付遺文　禁中　故京

故宮 付故宅　仙家 付道士隱倫　山家　田家

隣家　山寺　佛事　僧　閑居　眺望

餞別　行樂　庚申　帝王　付同書　親王　付皇孫

丞相　付執政　將軍　刺史　詠史　王昭君

妓女　遊女　老人　文友　懷舊　述懷

慶賀　祝　　憲　　无常　白

310
103

風

春風暗剪庭前樹夜雨偷穿石上苔　徐凝

入松易乱欲惱明君之魂流水不返應

送列子之乘風　風中琴賦

漢皇手中吹不盡徐君墓上扇猶悲　行旅

班婕妤裁扇直誇潔為君子無車公徒憂　保乱

あまつそらのふるさとつけてもはかのうら
ゆきさらぬしらはたとりてあきの中務
なのうへとありあけよりのぼるうら
よもしらぬふるさとかすみたちわたる

雲

竹斑湘浦雲凝波裏之鏡鳳吉秦畫月

老吹蕭々地　結賦
山遠雲埋行客路松高風破旅人夢
盡日望雲心不厭有時見月夜西來　出拾元
漢皓爾秦之朝望礙孤峯之月陶朱新
城之暮眠沿流水之悠々　拾遺
乾清坤之地北載不生之侯岐岑岳生松亭

漢帝龍顔迷霧淮且雄翅失面連 芳

[illegible]

晴

煙消門外青山近霧重宮前緑竹低 鄭師舞

紫色之岚嵐詠雲收七百里之朝

布之泉波冷月浅四十尺之餘 山陰秋色多佳成

雲消碧落天雲初風動清潭水面遊 考

霧韜出岫枝霧蔽孤帆遠水雲消蓋三

陶嵩韜蔽日高見依浪昂雲ふ孤 芳

[illegible]

曉

佳人盡飾於晨粧魏宮鐘動遊子猶行
殘月函谷雞鳴
幾行南去之雁一行西傾之月却沉
誘而物りうる旅客猶腐泣の袖而
戰之帥の筋未歌

嚴粧金屋之中青蛾正畫罷之美瓊遠
之上紅燭空餘已上曉賦
百聲宮漏初明一點宮燈自滅時
あさまだきなるうらはさびしきゆのた
きすがたにしまわれてやすらや

松

但有雙杉翁砌い丈無一事到心中 白

青山有雪清松性碧石落三雲梅韻心 許渾

子丈淺雪庶家然庶家と沓百尺乘風

逢破蓋中〻〻討 柳宗元 杉賦

九夏三伏之暑月竹含錯午之風玄冬

素雪〻〻朔杉彰君子〻〻 原況賦 順

十八日菜雨は霧一〻冬色雪中涼 順

含雨嶺松天更霽燒秋林葉火還寒 江

ちはなるるみやまもるれ

ふいまひとしほのいろまさりけり 源宗于

われみてもひとしらなりねすみよし

ぬきしのひのまつわるも

あらたまあらひくみのかひあり
をかもはひきすてしれば　素堂

竹

焙茶烟乱飛後園風枝蘭孤月秋　白

阮籍嘯場人歩月子歎看霧島栖煙　章孝標

晉騎兵叅軍且子歎栽稱此君唐太子

賓客白樂天愛為吾友　萬茂

進筆未柚鳴鳳管盤根撓點卧龍文　中書王

しらるれとはけるれとしられたら
れなとまとしにいるものはれ

草

沙頭雨染珊瑚草水面風驚翡翠波　白

西施顔色今何在直至春風百草頭　元

鶴草屋ものこ芝原領閑く巷藁屋原

緑面原書こうく梅　立秋

茅色雪晴初布渡香雲霧勝衣孫意　江

兼山有る諸猫露清世人沈流流儒

う清茅ったくちてうるものうしうし

まみのまもてるむみうくてにやむ

れはあらまのもうをれれ

はもこ、ままもてさかしうるむまま

やうはよしくさはもしなむまま

みをもてもるのひうるのもなむ　素

鶴

嫌少人而踏高位鶴有乗軒恐利口之
霞家在能穿屋鳳為毒藏
同李陵之入胡但見異類似屈原之在
楚所人皆醉 賜受姓詩賦
彩来枕上多事鶯歌盃中古光光白
清風教夢松下鶯宮一題竹窗燒月

雙舞庭前花落之夜池上月明時 利右
鶯啼窓前丁々歳々初二月就之彩
儀陶安公くかる左 北神仙榮文
仇龍性深忍乳光鶯心宗後し晩 方
叫漢毫寒孤枕昔和風傍入古絃原 順
わ。けうそ。ー ほみちうそ。ー

なりあ一つをもてうかぶる
木ほそるもれいこれをりの
ら松ふこうよりあり
あるつをふなあるふ
なくつくるうるさ

猿

猿聲寒澗一夜々々言鶴唳天巴峽
秋原日夜々哀猿叫月 清賦

江陵巴峽初來字猿(る)巫陽姫斷腸(の)
三彩猿(は)無銀渡一葉舟中載病子同
故郷一夢秋破高々夢巴猿三
叫曉霜行人々夢巴猿三

人焼一絃秋桂掬猿叫三峰曉峽深
曉峽蒼源猿一叫蒼林花落雪江
谷静幾回山雪裡梯花科諸峰猿叫月

[illegible]

管絃

一琴風音秋寒[illegible]雲数相[illegible]
[illegible]曉[illegible]猿山[illegible]月[illegible]
第一第二絃京し秋風拂松詠[illegible]
第三第四絃冷し夜[illegible]
明第五絃[illegible]
不得五絃[illegible]

陸氏草花譜自元亦宋篇後人知白
頃令燒下裁太姑誤雪同心一斤花章孝標
屈指之為重太姑無情於樣姑苦
紅之色也如石間花伶人春姓之氣力苦
落梅曲舊唐吹雪折柳新手掬炉月
相如若桃夭君將莫使麗中子細聽琴

ことばはよみ人しらず
わいそれのをよりしらずもあるも

文詞 付遺文

沉詞怫悅若遊奥衒匂出重淵之底
浮藻聯翩若翰鳥翼繳墜曾雲うく

遺文賦

遺文三十軸とし金玉聲龍門原上

去堙骨不堙名 題故元少尹後集 白

言語巧偷鸚鵡舌文章分得鳳皇毛 元

錦帳曉開雲母殿白珠秋鳴水精盤 章孝標

昨日山中之木才取於已今日庭前

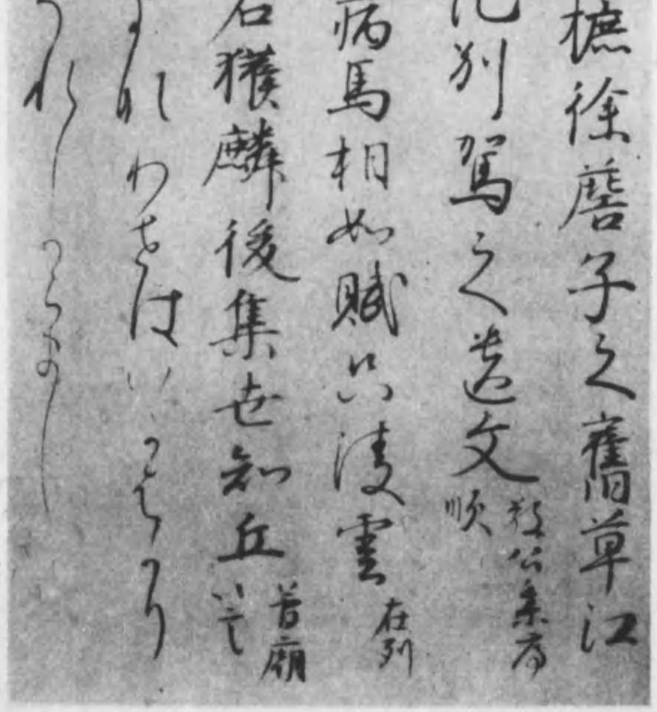
之花初慙於人 萬茂

又朗八葉之孫樵徐磨子之舊草江

淹一時之友集范別駕之遺文 杜公集序 吹

陳孔章詞空愈病馬相如賦以淩雲 在列

贈爵新恩銘刻石獲麟後集也知丘 首廟



酒

新豐酒色清冷冷　鶴觴盃中長樂
歌亭出烟花鳳皇　送友人采賦
晉建威將軍劉伯倫嗜酒作酒德頌傳
於世唐太子賓客白樂天亦嗜酒作酒
功讚〻〻〻　白

酒風物秋樹對酒長年人醉貞如素葉
雖紅不老春　白
生計梅來詩老葉家園忘形酒如雲　白
茶能提醒酒能忘憂得力微　月
若使堂期無醉醒二〻四未有二〻三　月
醉鄉氏〻國四時物詩溫和〻天酒泉

郡之民一坂来知深谷之地 樵夫隆飲酒 旦衡

菜畑之林莞之間 歌合自治酒尭下

為村〻所傾与義江

先達既落如導衆 俄別伶同去風 人詠々 相相公

邑隣達徳非行歩 拾橋無用使生巨 同高 基平重

且勤卿寂蓮泥脱 稽康山雪逐流孤 俊成

ありあけのつきのかげをまちいでてやまのはもうすくなりけり 秋道

山

鑑色迫陸蒼海上 泉洋飛巷蒼中 夏天山 賀茂重

勝地本来無定主 大者山屬愛山人 白

夜静眠鶯松月暁 巖孤藤峙炉雲

孤扇梅木吉盛霧雨怪老を家庭の
前萩曉奥林頂元隙源蓍の谷心空し
なのみてやはみつさもなりわ
あさひゆふひのきれをいみつも
くもはやるうよおいるなわ
ひぐらしのゆふはもかを

みわしはよりみるさよりの花
ひいらるふはあるいはあるいはあるもの
山水
東山石溪古墳高城を高江の海ふ秋
細江故紙木を原
巴猿一叫停舟於明月峰を重ねる

[illegible]
礙日蒼山青蔟蔟浸天桂水白茫茫白
漁舟火影穿蘆浦猿嘯空林[illegible]山 杜荀鶴
山似屏風江似夢叩舷來往月明中 劉禹
孑木枝詠書風柳山橋[illegible]樓迢
戴叔倫家何伯子風民

韓康賣藥之栖茅茨如畫花繁屋舟
之泊烟波性初
山復山何之削成青巖之形水復水
注象洪出若沼之名 以上出相公
山郭意樹雲岸雲海岸孤村日雲時來
山成向晴斜陽裏水似迴流遶百江

[illegible]

水 付漁父

邊城之牧馬連漸平沙眇江路之征
怳盡玄遠岸蒼〻 曉賦
洲芳杜茂抽〻長沙暖鷺考枝翅 白

怳再青芽滋中玄衣浥英梅面寒行 白
小徐詩家笑后月花枝入女湖去 白
茲美杉酌書落酒船艇舟流夜漲灘 漁父 杜荀鶴
困居屬北誰人崇高殿〻本長秋
乃見北門文事流〻彩亦や 若示秋水 苦
垂釣者不得奥賜思浮趣〻有意秋

梅若時雨霧霞〻遠時同

沙頭刻印詩題文小廚樓書鷹皮時 胡侃

日脚波平孤嶋暮風頭岸遠客帆寒 佐竹

ゆくことをれのつみとなるみづ

はるかぜつゝもとゝふる 中務

みれどもたゞのてがたまみづ

にふるひすあるほうらはのみづ 芳村義志

梅中

風池は面形秋月詩前双蕾山 白

秋月高題宗紫水仙既数梅軍胃 同

三十仙人誰滑稽金元度角曾詩彩 三宅孝保

雅人晴吸春雲吐意達夜明

暑激時天くれて寒

朝候日高前類拔夜行沙厚履苔忙 聚句

みるもの[illegible]

もわれをしるかおうとこゝろおもと

ゝにまひうりてかけまあきのつゆ

くもれうえ永却ひつらるゝ 月富夜

[illegible]人西鶴代臣

古京

緑草如今麋鹿苑紅花定昔管絃家 菅三品

[illegible]

故宮 付破宅

陰森古柳疎槐春無春色猿落花愁

壞宇秋有秋草　建昌宮賦

臺傾滑石猶殘砌麓斷真珠不滿鉤　白

强吳滅兮有荆棘姑蘇臺之寂寥

暴秦亡兮三輔狼咸陽宮之煙斜　順

老鶴乍來仙洞駕寒雲在昔妓樓衣　菅

孤花裛露啼殘粉言尋栖鳳守廢籬　良春

荒籬見露秋菜注深洞同風老檜出　英的

向曉蓋頂出白露紙書床底見青天　善宗

まがれるあれのいろもまさりけり

わづらのもるまもそはれなりけり

きりぎりす　けさわるこゑにおどろかし

よもうらさびしなるらん

いとつはたちるさくらやひらのみね
むいまるしのゝ水むすうしふら

仙家 付道士隠倫

壺中天地乾坤外普薫殿名上書云
菜畑有火寺夜伏雲雨無人小自書曰
山庭橡殿雲水秋洞中栽樹鶴先知 温庭均

三壺雲深七万里くゝ程水深百丈
嵯峨十二楊くゝ梅橘天者
もの犬火光寒山寺夜杜紅桃くゝ浦春風
栖棲者水深桃くゝ林月
深入仙家雖白半日くゝ春忍陶潔里
後逢七十くゝ孫江

[illegible]山中景色月華佳
石床面洞嵐空拂玉葉枇杷林鳥啼
桃李不言春幾芳炎霜無跡菅生楊
[illegible]高一丈雲長[illegible]日暮[illegible]
高山月落煙鬟白頻水波揚去耳清江
[illegible]有[illegible]空酒[illegible]

通夢夜深蘿洞月尋跡春暮柳門塵
わけてほそやまもとのまよひのように
いつてつるしをつわらん事性
山家
遺愛寺鐘欹枕聽香爐峯雪撥看
菜花時節忙山面積茅菴中　月

漁父晚行江浦釣牧童宝笛信朱吹 杜荀鶴

青青竹逢雨根株多紅顏

こゝ突然仲散之竹林出則烟弥北

東北こゝ士 尚留去 昔三品

南望則有開闢こゝ長行人西馬猛豫

翠蓋こゝ下東風上玉林語こゝ如宋鶯

白鷺直立於朱欄こゝ高 白居易 順

山谷日落海耳者推歌牧笛之聲

沼反多陶意照者竹炉杉霧之色 高君

花間光交学交語同高松乳鶴下溪

晴後青山沿徧近雨初白水入門流 方

獨石青雲生枕上衛嶺曉月出窗中 直移

やまとはものゝふの道とぞ
あれはあるよりはすみよりの
やまとはふゆのをしさもそう
けるひとあもらさもしねとなるを

田家

碧毯線須抽早稲青羅裙帯展新藕 白

守家一犬近人吠放野群牛引犢休
暦酌卯時菜葉露山畦甲日稲花風 言名
蕭索村風吹笛更蒹葭水程月橋太程 相如
ちるのもをひとのうせてまたをて
はなをこうるをはるるこうるれ
ちるもきはちるいつもうるおいつし

あめにもさはらてはらてなむ
まれふそてらしんとものこのまたい
なそもてはやまあまつそのあと

隣家

明月好當三位夜緑楊宜作兩家春
可憐絶勝數相見子孫長作隔清人 白

池邊別業是何人南道陸張昔卜隣
落枕波聲分岸夢當簾柳色兩家春 菅三
春煙遥讓簾前色曉浪潛分枕上聲 直物
まもるやとわるをはるはるはは
うつくはわとをみむひともうれ

山寺

千株松下雙峯寺一葉舟中萬里象 白

更無俗物當人眼但有泉聲洗我心 同

不改朝天之門便作求車之所百憂

閑小之橋以為釣岸之途 慈恩寺野

策馬來時只思風煙之可翫逢僧談

空之術皆世俗皆空 英明

人如雲海雲出地皆空 苔

三千世界眼前悉十二因緣心裏生 秀

泉聲雨洗耳同音葉底風吹色相秋 想

やまのいろあひのつりのこゑよ

ふもとにおちてなるかな

みやこをとをすみこのもとをすみ

佛寺

月隱重山之拳扇喻之風息大空之

動樹教之 出觀

願〻今生世俗文字之業相交語之

誤謬爲菊桑世〻横仏系之目構法

輪之孫 白

百千万劫菩提種 八十三千万劫林 白

十方佛土〻中以西方爲望九品蓮臺

之胎 係脫

雖十方之指引 橋甚於夜風枝雲霧

注一念之惑 惑猶巨海納消霧 ほかあり

昔切利天王、く安居九十日、[illegible]
模尊容今拔提河ふく滅度二千年爰崇
磨金而礼兩足 匡衡
浪洗欲消鞭竹馬而不顧雨打易破閑
斧柯而長忘 [illegible]
念極樂ふく尊一座[illegible]月正圓光勾曲之會

一切洞花欲[illegible]
玉琴[illegible]思絃管奏納衣僧代[illegible]人 [illegible]
蓮眼豈養清涼水面月長留十五天 [illegible]
[illegible]佛神通那酌書經僧祇劫[illegible]宗 [illegible]
叩凍屑来寒谷月拂雲松[illegible]雲 [illegible]
已[illegible]文 [illegible]

いつまでかはなもとのわかれをはのりはすめる小けふらつみ法師　邑上清製

こゝをはいつくにほとゝきすの

とはとめてしるとしなりけり

河稙多羅三藐三菩提の仏道わつらひて

そ一日を為賀あらんとやまん　侍教大師

あはれとて善根乃者をまうを

色者義法貴人之出人色花分

東寺荘をわすれかね　七日前

僧

蒼茫霧面えく書初宮汀清立書

豊炬尚を的雲晩を伝陶　天徳

堅方法師海雲月芳林樹高秋晚色　代深

豈を毎儀芳し遥面れ中天に月高き

師法芳し偏点れ石墨に雲　錢人左傳

明鏡を開随境照白雲不英い山来　壁

親堂浄信心無月送老高僧首刺雲　順

鈴木翅刷子重雲傳老眉長い子雲　ケ重

ちちめはうれとそもむそたよ

ひわつそうみをしてもやあり　長信

よのいうようのるものなわせ

おもひのいつをいそそよ

みわのもやまきなりれまさそ

ちわれをそもにまやなってむ

閑居

不獨記東都履道里有閑居泰適之叟
亦今知皇唐大和歲有理世安樂之言白
家車一百橋墓之十二字也漢祖難追
孤鶴之三子時光 宗賦
幽思不窮徐卷三人之愛然腸之斷

京宮有月詩 月上

詩就罷吟見客去時逢故人 白

人冒榮耀因孫淺林下幽閑氣味深 白

蓬亀自比心長別世事浮今昔白

蕙帯羅衣抽簪於小山北業橈桂檝

波往於東海之東 江初云

都府樓纔看瓦色觀音寺只聽鐘聲 菅

晦跡未抛苔任月避喧猶卧竹窓風 佐伯

陶門跡絶春朝雨燕寢色衰秋夜霜 菅

わすれはみちもしらずあしの

まわりたるまくらとやすらん 良佐正

眺望

風飜白浪花千仞鳶點清天字一行 白

出宗園而東望山岳半栖雲根之暗鱗

翠嶺而西顧家鄉悉没煙樹之深 尊敎

見天台山之高巖四十五尺波白望長安

城之遠樹百千万莖薺青 順

江霞障浦人煙遠湖水連天鳶點遥 直待

一行斜鳶雲端滅二月餘花野外晴 順

老眼易迷殘雨裏春情難堅夕陽前 萬茂

餞別

[illegible] 白

前道程遠地里於[illegible]山之[illegible]雲[illegible]
[illegible]孤[illegible]於[illegible]之晴[illegible]
昔[illegible]年[illegible]於[illegible]法[illegible]十五年之間今
遠垂[illegible]於三百歟
物[illegible]詩[illegible]之送人每年[illegible]
人送[illegible]

万里東来何[illegible]一生西望是長穩 野
九枝燈盡唯期曉一葉舟元不待秋 庶幾
[illegible]浮生期[illegible]會[illegible]出石火向風敲 首
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ひとをたのみてあらん　清原元輔

いなせをまつるふしのなかはち

うつりかのかなしきかな

行樓

孤館宵時風雨急　北海雲小遠雲　許渾

行々重々明月峽々曉色不盡時山

時々長風浦々暮秀猶深　順

曉入長松々洞巖泉咽嶺猿冷夜宿

極浦々波青崗吹皓月冷　右雅

渡口邨船風定出波頭滴雲日晴來　聖

洲蘆夜雨他鄉渡岸柳秋風遠客情　直材

蒼波路遠雲多里白霧山深雨一秀　月

なれ、いとあうしたうのあるまゝわ
しまうれゆきまねをかなかく允
わるのはるやそしまうけてうそ
ゆとんるはけるとあるのうりれ曙
ゆうあうそみやこいうそけるやら
むくふかうらもものやまはうらわと無名

庚申

年長毎芳椎甲子夜寒初芒守庚申　許陣

巳酉年終冬日サ庚申夜半暁光遅　菅

おそれうのうちうなきうりれ
うあるやうまうたこいをやうたこ

帝王

漢高三尺之劒生創法侯張良一卷之
書立登師傅 任漢書
項庄之會鴻門寄情於一座之客漢
祖之帰沛野倚里於四方之風 任漢書
四海安危照掌内百王理乱悉心中 百陳鉉 白
韋象堯舜正如化得作羲皇向上人 白

聖皇自在長生殿不向蓬萊王母家 楊衒
仁流秋津洲之外惠茂訊波山之法渕
変作秋之夢之宵之間口沙長如巖之
頌洋し海耳 和亨庵 陳全
梁元昔拾遺去王之月衛蓮周穆彩雲
西母之雲之海 義三六

布政之庭風流未歇於峴園魚之者此
地也好文之世德化未必光于黄炎魚
之者我君也 蒼泉院序 菅三品

栄啓期之歌三樂未到常樂之門皇
甫謐之述百猶清法之道江
玉宸日臨文鳳見紅旗風卷畫龍揚 朝拜 時

刑鞭補杼蛍空言諫諍苦深鳥不驚 國用

なるはつるよりもうのそれみゆこも
わいはるをいうとせうもれもれ
ちりわれとまるうはるもさきにくわ
ぢとものちはまみをとるみるむ 山杉屋 法樂

親王 付王孫

庫車軟轝貴公子香衫細馬豪家郎 杜牧之 白

東平蒼々雅量寧非漢皇饜貴無雙

之弟郭槐柳絮々々久初之高二尊之

雪弟いく子や 光 歌之 古抄 首三ハ

江寒々好勁樅也七尺屏風玄法高

淫南之求神仙や一旦京雲西印蓋 順

冊巻已知四子道秋風拈全斷湖雲 保胤

我主孝行先印形梧岫秋風一行炉 雅規

世花非世人間種瓊樹枝頭第二花 江 名花集

此花非是人間種再喜平臺一行霜 同前 光 三ハ

いろのみのみのなかはのなかはの

わかほまれをもとめ 左摩和尚

丞相 付執政

季文子素不衣帛魯人以為義法子孫
弘服脮布被汲黯譏其多詐 任淵書
百里奚元食於道詠伯云番以政寧戚
飯牛於車下恒云但以國 淮南
孫弘買田無為傳說舟匠小僧人 白

函京庵門乃是陳丞相之墓寇南山
芝泥宮之北表司徒之幽楊江
傳民巖之嵐雖風雲於敢著之沒巖
陵瀨之水猶涇渭於漢將之初 黃三
春過夏圃表司徒之家雪應路達朝
南暮北鄭大尉之溪風被人 初同

やまとうたあくまでいさましきみちなれどふみわけよ　兼宣

将軍

三尺劒光氷互手一張弓勢月当山　陸翠

雪中放馬胡尋跡雲外同烏夜討奸　晁乾

千里法来沽馬度十年経列古人称　許渾

隆山雲晴李将軍左家頻水流不

来沽雪方応来仕　首三

孫子兵書牙旗指屯芳於渭四七将軍

抽雄角逐味文章於魯二千箭　順

解剱互稀校尉秋霜三尺恃英自口

吟之字玉一奉　順

[illegible]

刺史

士めぬ生野豆月六生天童紫梅花高白
精明名浦瑞相以新割崑崙細雨如　信亘

[illegible]三百畳等張重太不毛碧
山一面句一つ重泳小清岩と祐國　信胤

[illegible]にのほりてみれはけふ
はたみのうらはまはるる

詠史

燈暗数行虞氏淚夜深四面楚歌聲　相相

賓鴈疎書枯葉兮飛枯葉乳東籬也 左云

廿日遂世素車白馬兮初淫淫兮顏色

うつりはてしるあれとなりぬるみ

ちもなかりけり 江相公

王昭君

悲苦辛勤顧頼盡如今却似畫圖中 白

身化早為塵土骨空留宮殿作漢荒門 江

翠黛紅顏錦繡粧泣辭沙塞出家鄉 江

金風吹斬枯心弦流水流花風雨月 月

松角一聲雲月暮猶聞宮漢宮中月 同

明月芙蓉芙蓉殿月來東帝王 同

數行清淚孤雲外一路悲風萬里月遥 白

あひしらうれなるかとし
まさきく人もしたはるみかの宮
妓女
容貌以男潘安仁之外綽氣調如光華
李珪之妹 佐久成
外人不識風塵之味唯一清潔而已 元

嫁婿李懷秋淳寒花姓。雖人懷意山之色 白
芳性紅巾色面咲玉風吹殘杜丹花 白
李延年之洗模詭一姉以妖冶術子
夫之結五雨醜而永愛 唯
秋夜待月繞望出山之清光夜日里
蓮初見雪水之紅艷 佳麗序 右

美形宮人才色並秀横来下詔采法音
雙鸞且理玉壺歌月殿生晚月繊
羅袖不逢迴火鬱鳳釵還悔謀書迹
和風先導董姬出弥重如房遶翠蛾
烟寒舞低長袖蔚志未休麗晚茶釵白
歌声今日新飢襄泣夷先朝宴舞筆元

あまつをとめのうたちとも
そらとめすがこーたちいらめむ

遊女

秋水未鳴遊女佩寒雲空満望夫山 賀茂真淵
翠黛紅閨万事之礼法離異舟中浪
上一生之歓會是同 公

倘無後調法深月唐櫓高椎入水焼 咲

[illegible]

[illegible]

老人

昔為京洛聲蒙[illegible]今作江湖漂泊[illegible] 白

老眠早覺常殘夢病力先衰[illegible]事 月

再三懶洞非他事天寒老民見清秋

紅葉黄落一樹々春色枯枝孤拙

皆一般之枯心老思

少於樂天三年猶已衰々歟也極於

膝地一日非是老々幸哉 月

太公曾々思周文渭濱之渡豊面猶

里雲ふく浦遠き高山くゝ月垂有　宗久

水無瀬夕流千波花重春暮鶯　尚通

林霧枝聲聞不見岸風論力柳強　同

醉對落花心自靜眠思餘笑淩兄紅　雅親

海邊小人不知雅弓乱叶下世つゝ元

ゆゝ尺原来武下雅知おお知

雅下之相法地　喜社

いたゝうみはよせよしのゝ

だいをいとゝわ人しなれ老　内新

文友

琴詩酒友皆抛我置月花時家信来　白

陽春曲調高難和淡水戈情尤婦来　同

昔年頃我長青眼今日逢君已白頭 汗牛

蕭會稽之過古廟託締異代之文張

僕射之重新才推為忘年之友

裴文藉後聞君久嘗礼部孤見我新 濃

[illegible]

懷舊

黄壤誰知我白頭猶怪君呈得意

淩一瀾放人交白

長夜天光殘夢我幾回秋風襟海

滄浪亭主人毎日
注事助花木風景遊雲落米陶淵
種物坊主就以時之尹橋傾形蔭科
金谷醉花之地花毎春白而主石陶南
楊朔月之人月与秋期而飛仲吉光之
玉子晉之昇仙行人之相於緑嶺之

月華大偖之早世行宮隧渡於峴
山之雲 安示与序 拘知

俊歌良木甚樗歌老雲堂業勿寄語 蘇林

いつ一のなかめわるれとも
よのなをひとそ忘むる
むうこをはうとおもうとはわ

あやしくあるものかなれ
ものしうあらんずるはとおもふこと
なきはおほかるべきなりけれ

述懐

専諸荊卿之感激侯生豫子之捐
身心為恩使命依義極（ほ漢出）

范蠡収責勾踐乗扁舟於五湖咎花謝
罪文公之遠巡於河上（ほ漢書）
嘶其積礫不窺玉渕者曷知孫龍之
所蟠習奥邑不視上邦者未知英雄
之所居（久安）
人習移福恩難報世上風波危如懸（白）

車前驥病駑駘逸架上鷹雨鳥雀死 許渾

事事無成身也老醉鄉不知歲如流 白

范蠡收責棹扁舟而逃名謝安辭功伏

孤雲而養志 江

昇殿是象外之選也佞骨不可以語道

某之雲書上天下之望中庸才不

可以攀蟾宮之月 李紳

歌亟頒和思三代之粮況恨同伯夷孔

子嘆而伯夷 西通

之下時生清骨夫吳中係說刺人刀 良玉遺

載鬼一車何足恐梅亞三峽未為苦 中子

楚三閭醒纍卿四蕃周伯夷飢未死矣 信平

なをとしてみのいろをかへんと
さけたもはむこともやすく
よのかうはとそもかうそもむなし
とみやまちはそこはそこなれそ
かそけうつろくみゆるよのかうな
うちもすくもすあるつまのし

慶賀

紅佩曉塢美風流姑射夜宿一泓秋白
紡唐玄圃三千里一道風光似富春章孝標
想滑江南法父老因君報桂子新月
更訪仙孫伴中美能初出紫微客皇甫
能血衣慶新喜泥陵翰衣君喚風

花月一言賀昔昭雲風百里照今家

有躬恥相知久君乾南初行百童 上上四韵

うれしさをむかしはすてしまつみ

なわつまはみよもあまわつさつ

祝

嘉辰令月歡無極万歳千秋楽未央 謝偃

長生殿裏春秋富不老門前日月遲 保胤

わつまみはちまつにさいい

しけいさほとなりてこのむさまて

よろつまとみさのやまふはまし

つあめしーまふ

窓

夕天童方丈蒙蔚不聲香
乃君事宗師見童家毛頭白
更闌夜靜長門冷不一井月冷風秋
團扇香而共絶 張文成
行客見月傷心色夜雨聞猿斷腸聲白
春風桃李花開日秋露梧桐葉落時 月

夕殿螢飛思悄然秋燈挑盡未成眠 月
南翔北翥雖付寒溫於秋鳴東出西流
只寄瞻望於曉月 吳越王書 白
聞得園中花養艷請君許折一枝春 無名
寒閨獨卧無夫聟不妨蕭郎但馬蹄
貞女峽空唯月色窈娘堤舊獨波聲 白憲

わかえはゆく〳〵もしたそもれ
こゝあふをうまわとおもふ心不形恒
ものゝ〳〵わとこのあるになわ恒
まゝとあふ心まゝまとれる人九
いかゝむとをり　はかなきなる王の
ありあれて王をもちをつて王をつれ未性

無常

観身岸額離根草論命江頭不繫舟　羅維

年〻歳〻花相似歳〻年〻人不同　宗〻百

蝸牛角上爭何事石火光中寄此身　白

生者必滅釋尊未免梅檀之煙樂盡哀

来天人猶逢五衰之日　白

初有紅顔誇世路暮為白骨朽郊原 義孝

雖觀秋月波中影未遂春花夢裏名 江

よのうをとなりてもむあをは

らけうまゆくもの あれしれみ 清輝

てもむすふみてやなるつまうれ

れあるつしはすれとも、ふあり今れ 貫

もとをれつゆもものはかれよの

なりのはれをもあなる花 良経

白

秦皇鷲欲燕丹之吉日烏頭漢帝

侍道薤忠之来時韓嫁白地

紀河流沢東秋天又見林園白露園 順

毛寒龍陶宮沈底玉弧失三映花奇
蓋湖月色隆潮海蕊嶺雲雪与雪走
君鶴沙鷗共一孝煙手横衛晴秋 上
しらしらけ　ゆくつら
にゆるるわ　むめの花ぞ

製本控　　伺第　　號

310 函　103 號　年　月　日

書名 偽漢明新集（巻下）

著者

受入　年　月　日　1 冊

備考

310
103

昭和十九年二月十五日印刷
昭和十九年二月二十日印刷納本
（三五〇部）
昭和十九年二月二十五日印刷
昭和十九年二月二十日印刷納本
（合計四千六百五十部）
（内訳文化協会々員分五〇二四部）
定價 金一圓二十五錢
著作兼發行者 東京都文京区小石川表町一丁目二番地 放送協會
印刷人 東京都千代田区神田錦町七丁目一番地 武田英一
發行所 東京都文京区小石川表町一丁目二番地 日本出版配給株式會社
振替口座東京一〇〇〇番
内閣情報局認可 昭二〇・二・一
許可 不許複製
配給元 東京都千代田区神田錦町一丁目一番地 日本出版配給株式會社

終